

職業実践専門課程等の基本情報について

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地																																	
新東京歯科技工士学校		昭和56年3月30日		宮崎 隆		〒 143-0016 (住所) 東京都大田区大森北一丁目18番2号 (電話) 03-3763-2211																																	
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地																																	
学校法人東京滋慶学園		昭和61年2月1日		中村 道雄		〒 143-0016 (住所) 東京都大田区大森北一丁目18番2号 (電話) 03-3763-2211																																	
分野		認定課程名		認定学科名		専門士認定年度		高度専門士認定年度		職業実践専門課程認定年度																													
医療		歯科技工士専門課程		歯科技工士科 I 部		平成22(2010)年度		-		平成30(2018)年度																													
学科の目的		自身の得意分野の向上に努め、興味関心を持つ知識の理解を深めるとともに社会人基礎力を兼ね備えることで、歯科医療チームの一員として活躍できる歯科技工士となる。																																					
学科の特徴(取得可能な資格、中退率等)		歯科技工士																																					
修業年限		昼夜		全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数		講義		演習		実習	実験	実技																											
2年		昼間		※単位時間、単位いずれかに記入 86 単位		41 単位		13 単位		32 単位		0 単位	0 単位																										
生徒総定員		生徒実員(A)		留学生数(生徒実員の内数)(B)		留学生割合(B/A)																																	
180 人		148 人		22 人		15 %																																	
就職等の状況		<p>■卒業者数(C) : 49 人</p> <p>■就職希望者数(D) : 43 人</p> <p>■就職者数(E) : 43 人</p> <p>■地元就職者数(F) : 0 人</p> <p>■就職率(E/D) : 100 %</p> <p>■就職者に占める地元就職者の割合(F/E) : 0 %</p> <p>■卒業者に占める就職者の割合(E/C) : 87 %</p> <p>■進学者数 : 1 人</p> <p>■その他</p> <p>留學生帰国、家庭の都合で就職希望なし</p> <p>(令和 5 年度卒業者に関する令和 4 年 5 月 1 日時点の情報)</p> <p>■主な就職先、業界等 (令和5年度卒業生) 歯科技工所</p>																																					
第三者による学校評価		民間の評価機関等から第三者評価: ※有の場合、例えば以下について任意記載		評価団体:		受審年月:		無 評価結果を掲載したホームページURL																															
当該学科のホームページURL		https://www.dt.ntdent.ac.jp/department/dept1/																																					
企業等と連携した実習等の実施状況(A、Bいずれかに記入)		<p>(A: 単位時間による算定)</p> <table border="1"> <tr><td>総授業時数</td><td>単位時間</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数</td><td>単位時間</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した演習の授業時数</td><td>単位時間</td></tr> <tr><td>うち必修授業時数</td><td>単位時間</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数</td><td>単位時間</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した必修の演習の授業時数</td><td>単位時間</td></tr> <tr><td>(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)</td><td>単位時間</td></tr> </table> <p>(B: 単位数による算定)</p> <table border="1"> <tr><td>総授業時数</td><td>92 単位</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数</td><td>0 単位</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した演習の授業時数</td><td>4 単位</td></tr> <tr><td>うち必修授業時数</td><td>86 単位</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数</td><td>0 単位</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した必修の演習の授業時数</td><td>4 単位</td></tr> <tr><td>(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)</td><td>4 単位</td></tr> </table>										総授業時数	単位時間	うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	単位時間	うち企業等と連携した演習の授業時数	単位時間	うち必修授業時数	単位時間	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	単位時間	うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	単位時間	(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)	単位時間	総授業時数	92 単位	うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	0 単位	うち企業等と連携した演習の授業時数	4 単位	うち必修授業時数	86 単位	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	0 単位	うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	4 単位	(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)	4 単位
総授業時数	単位時間																																						
うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	単位時間																																						
うち企業等と連携した演習の授業時数	単位時間																																						
うち必修授業時数	単位時間																																						
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	単位時間																																						
うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	単位時間																																						
(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)	単位時間																																						
総授業時数	92 単位																																						
うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	0 単位																																						
うち企業等と連携した演習の授業時数	4 単位																																						
うち必修授業時数	86 単位																																						
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	0 単位																																						
うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	4 単位																																						
(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)	4 単位																																						
教員の属性(専任教員について記入)		<table border="1"> <tr> <td>① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者 (専修学校設置基準第41条第1項第1号)</td> <td>5 人</td> </tr> <tr> <td>② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号)</td> <td>0 人</td> </tr> <tr> <td>③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号)</td> <td>0 人</td> </tr> <tr> <td>④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号)</td> <td>0 人</td> </tr> <tr> <td>⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号)</td> <td>0 人</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>5 人</td> </tr> </table> <p>上記①~⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定)の数</p> <p>4 人</p>									① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者 (専修学校設置基準第41条第1項第1号)	5 人	② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号)	0 人	③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号)	0 人	④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号)	0 人	⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号)	0 人	計	5 人																	
① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者 (専修学校設置基準第41条第1項第1号)	5 人																																						
② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号)	0 人																																						
③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号)	0 人																																						
④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号)	0 人																																						
⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号)	0 人																																						
計	5 人																																						

1. 「専攻分野に関する企業、団体等（以下「企業等」という。）との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

教育課程の編成において、業界が求める人材要件(知識・技術・人間性等)を明確にし、必要となる最新の知識・技術を反映するため、企業・業界団体等の意見を活かし、教育課程の改善及び改訂を定期的実施することを目的とする。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

教育課程編成委員会は、教育課程を決定する「理事会」の直下に位置付けられ、教育課程編成委員会で出された意見は、運営会議にて改善案を起案し、理事会において審議され教科課程へ反映される。



(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和6年4月1日現在

名前	所属	任期	種別
山下 茂子	一般社団法人日本歯科技工学会	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	②
大学 泉介	一般社団法人千葉県歯科技工士会	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	①
白石 大典	有限会社湘南セラミック	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	③
石島 学	アライン・テクノロジー ジャパン トリート 合同会社	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	③
岩村 勇	学校法人 東京滋慶学園 評議員	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	—
宮崎 隆	新東京歯科技工士学校 学校長	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	—
関口 崇之	学校法人 東京滋慶学園 副運営本部長	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	—
今井 リカ	新東京歯科技工士学校 事務局長	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	—
印南 秀	新東京歯科技工士学校 学部長	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	—
富野 浩子	新東京歯科技工士学校 学科長	令和6年4月1日～令和8年3月31日(3年)	—
君塚 友見	新東京歯科技工士学校 学科長	令和6年4月1日～令和8年3月31日(3年)	—
馬場 知子	新東京歯科技工士学校 学科長	令和6年4月1日～令和8年3月31日(3年)	—
西村 充剛	新東京歯科技工士学校 キャリアセンター長	令和6年4月1日～令和8年3月31日(4年)	—

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「—」を記載してください。)

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回(5月、10月)

(開催日時(実績))

第1回 令和6年5月23日 18:00～20:00

第2回 令和6年10月24日 18:00～20:00

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

- ①学内実習と卒業後のギャップ感を改善するために「インターンシップⅡ」の時間数を増やし就業体験できる機会を増やした。
- ②トップ層教育の一環として大学病院見学を希望制にて設定した。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

在学中に、様々な臨床実習や歯科技工士の働き方を知ることにより、卒業後の進路決定や将来像の参考になるような機会とする。

(2) 実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

インターンシップⅠ、Ⅱでは、企業見学および就業体験を実施する。就業体験では一人で企業に赴き、一日の仕事の流れを体験しながら社会人としてのマナーや作業効率を学ぶ。また、臨床的実習模型等を用いた実習を現場の担当者の指導のもと実施する。各項目について評価表を提出して頂き、最終評価は本校教員が行う。

情報技術基礎ではIT専門の企業と連携し、社会人として必要な情報リテラシーについて、さまざまな事例をもとに理解する。また、Word、Excel、PowerPointの基本操作を習得する。各項目について評価表を提出して頂き、最終評価は本校教員が行う。

キャリアデザインⅠでは歯科技工士、歯科衛生士両方のライセンスを取得している講師が運営する企業と連携し、歯科業界におけるAI化の進む診療や患者のニーズ、日々の診療や唾液の大切さについて学ぶ。受講後にレポート提出し、その内容によって評価を行っている。

有床義歯技工学基礎Ⅰでは、最先端の技術で歯科治療を行っている歯科医院と連携し、義歯製作に必要な基礎を学ぶ。各項目について評価表を提出して頂き、最終評価は本校教員が行う。

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
インターンシップⅠ	歯科技工士が働く現場(歯科技工所や歯科診療所)の見学や体験を通して、臨床現場の仕事の流れを理解し、卒業後の進路決定の参考にする。また、訪問先で接する人々に対するマナーを知ることを通して社会性を身につける。	(株)ワールドラボ、 和田精密歯研(株)、 (株)中央歯科補綴研究、 (株)オーリアラ、 (株)ZOO LABO、 (株)ジーシー等
インターンシップⅡ		
情報技術基礎	社会人として必要な情報リテラシーを理解する。Word、Excel、PowerPointの基本操作ができることを目標とする。	(株)プレーンスタッフコンサルタンツ
キャリアデザインⅠ	様々な臨床現場や歯科技工士の働き方や業界の動向について授業を通じて将来像を明確にすることを目標とする。	啓歯産業
有床義歯技工学基礎Ⅰ	義歯の構成要素、技工操作の手順を学び、実習授業において活用できることを目標とする。	ひかり歯科クリニック

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

業界と連携し、学会発表のための共同研究や企業主催の研修に積極的に参加する。

学部長、学科長中心に年間の研修を企画し、上記の研究成果や研修で得られた知識を学内で共有する。

※教員研修規程からの抜粋

第2条 研修は、教員の授業内容・方法及びクラス運営方法を改善し向上させるとともに、マネジメント能力を含む指導力の習得、向上させるために行う。

第4条 法人本部並びに学校は、教員の研修計画を策定、実施し、教員に研修を受ける機会を与えなければならない。

2 法人本部または学校が必要と認めるとき、他の機関と共同または委託し、研修を行うことができる。

第6条 教員は、日常の勤務を通し必要な研修を受けるものとする。

2 日常勤務を通した研修は、教員の監督者がその計画を策定、実施する。

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名: 日本臨床歯科臨床学会	連携企業等: 日本臨床歯科補綴学会
期間: 6月30日(日)	対象: 専任教員
内容: 咬合構成の基準を再考する	
② 指導力の修得・向上のための研修等	
研修名: FDマイクロレベル<クラスマネジメント>研修 I	連携企業等: 滋慶教育科学研究所
期間: 3月19日~4月8日	対象: 専任教員
内容: 学生の変化に沿った教授法の基本(マインドとスキル)を修得する。	
研修名: FDマイクロレベル<スタート>研修 I	連携企業等: 滋慶教育科学研究所
期間: 3月19日~4月8日	対象: 専任教員
内容: 学生の変化に沿った教授法の基本(マインドとスキル)を修得する。	
研修名: 新入職者研修	連携企業等: 滋慶教育科学研究所
期間: 2024年3月19日~4月8日	対象: 専任教員
内容: 滋慶学園グループを知り、自分らしさを活かして仕事を楽しむ	
研修名: 滋慶EASTマネージャー研修	連携企業等: 滋慶教育科学研究所
期間: 2024年5月10日	対象: 専任教員
内容: マネージャーの役割としてのの人材育成について学び、マネージャーとしての視点を上げる。	
研修名: 滋慶EASTマネージャー研修	連携企業等: EAST人事・採用センター
期間: 2024年5月10日	対象: 教職員
内容: マネージャーの役割としてのの人材育成について学び、マネージャーとしての視点を上げる。	
研修名: FDマイクロレベル研修 II	連携企業等: 滋慶教育科学研究所
期間: 2024年6月14日	対象: 専任教員
内容: 授業改善の工夫および、クラスの成長をするためのコーチングの基礎を学び、実践することができる。	
研修名: 学校を続けていける力を支える	連携企業等: JTSC滋慶トータルサポートセンター
期間: 2024年5月21日	対象: 専任教員
内容: 学生情報から学生支援の対策や時期を考える。	

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名: 実技研修会 II	連携企業等: 全国歯科技工士教育協議会
期間: 8月27日	対象: 専任教員
内容: 光学印象の保険収載による歯科技工業界における期待と不安	
研修名: 特別講習会	連携企業等: 全国歯科技工士教育協議会
期間: 10月12日	対象: 専任教員
内容: 歯科技工に関する情報セキュリティー等を学習する。	

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名: 教職員カウンセリング研修< I 次研修>	連携企業等: 滋慶教育科学研究所
期間: 事前学習7月1日~8月31日 講義9月25日~9月27日	対象: 専任教員
内容: カウンセリングマインドを身につけて、学生や保護者に対応できるようにスキル向上を目指し資格を取得する。	

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

自己点検・評価結果について学校職員以外の関係者による評価を行うため、各校に学校関係者評価委員会を置く。評価委員会は、自己点検・評価結果の客観性・透明性を高め、学校の利害関係者の学校運営への理解促進や連携協力による学校運営の改善を目的とする。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	理念・目的・育成人材像
(2) 学校運営	学校運営
(3) 教育活動	教育活動
(4) 学修成果	学修成果
(5) 学生支援	学生支援
(6) 教育環境	教育環境
(7) 学生の受入れ募集	学生の受入れ募集
(8) 財務	財務
(9) 法令等の遵守	法令等の遵守
(10) 社会貢献・地域貢献	社会貢献・地域貢献
(11) 国際交流	国際交流

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

国家試験合格率向上のための、教育システムの改善を図る。学生が学校に通いたい、学びたいと感じられるような魅力のある将来像を産学連携を通じて未来をみせていく。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

名前	所属	任期	種別
中村 八大	株式会社テクニカルセンター	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	卒業生
時田 将吾	歯科技工士科 I 部在校生保護者	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	保護者
木村 正	一般社団法人日本歯科技工所協会	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	企業等委員
河野 勉	大森歯科医師会	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	地域等委員
森 章	拓殖大学紅陵高等学校	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	高等学校

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他())

URL: <https://www.dt.ntdent.ac.jp/department/dept1/>

公表時期: 令和6年6月24日

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針
歯科業界の動向や最新の技術について情報提供していただき、カリキュラムの見直しを図る。
また、学生の進路決定や将来の目標設定させる際の参考とする。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	学校の概要、目標及び計画
(2) 各学科等の教育	各学科等の教育
(3) 教職員	教職員
(4) キャリア教育・実践的職業教育	キャリア教育・実践的職業教育
(5) 様々な教育活動・教育環境	様々な教育活動・教育環境
(6) 学生の生活支援	学生の生活支援
(7) 学生納付金・修学支援	学生納付金・修学支援
(8) 学校の財務	学校の財務
(9) 学校評価	学校評価
(10) 国際連携の状況	国際連携の状況
(11) その他	その他

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

(ホームページ) 広報誌等の刊行物・その他()

URL: <https://www.dt.ntdent.ac.jp/department/dept1/>

公表時期: 令和6年6月24日

授業科目等の概要

#REF!	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		#####		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
1	○			情報技術基礎 Fundamentals of Informaion Technology	インターネットの使い方、使用する上でのモラルをまとめ、Word、Excel、PowerPointを使いレポート作成ができることを目標とする。	1 年次 前期	15	1	○			○			○	○
2	○			外国語 English for Dental Technology	あいさつ、海外訪問時に病気になった時、海外の展示会などで用いる代表的な表現を用いて、基本的な情報交換ができることを目標とする。	1 年次 後期	15	1	○			○			○	
3	○			造形美術概論 Compendium of Art of Dental Technology	形態の見方や表現方法の基礎を学ぶ。演習を通じて歯科技工に必要な立体的形態の表現技術を養うことを目標とする。	1 年次 前期	15	1		○		○			○	
4	○			キャリアデザインⅠ Career DesignⅠ	自己理解および他者理解を学ぶ。特に異文化とコミュニケーション技術を用いて自己信頼の構築を目標とする。	1 年次 前期	15	1	○			○			○	○
5	○			キャリアデザインⅡ Career DesignⅡ	キャリアデザインⅠでの学びを自らのキャリア形成に活用する。業界動向の諸事例を元に、将来像を明確にすることを目標とする。	2 年次 前期	15	1	○			○			○	○
6	○			歯科技工学概論 Compendium of Dental Technology Science	歯科医療に関する基礎知識、歯科技工の重要性及び歯科技工物について学び、その概要をまとめることを目標とする。	1 年次 前期	15	1	○			○			○	○
7	○			歯科技工士関係法規 Dental Technologist Applicable Laws and Regulations	歯科技工士として業務を行うために必要な「歯科技工士法」を中心に、歯科医療に関する法律への理解と遵守を目標とする。	2 年次 前期	15	1	○			○			○	
8	○			歯科臨床基礎Ⅰ Fundamentals of Clinical Dentistry I	歯科保存治療の概要を学ぶことを目的とし、診療室と技工室の作業における関連性と情報伝達について理解することを目標とする。	2 年次 後期	15	1		○		○			○	
9	○			歯科臨床基礎Ⅱ Fundamentals of Clinical Dentistry II	歯科保存治療の概要をより深く学び、診療に必要な歯科技工技術の習得を目標とする。	2 年次 後期	15	1		○		○			○	
10	○			歯の解剖学基礎Ⅰ Dental Anatomy-Basis I	歯や口腔の概説、特に永久歯の形態的特徴を学び、実習授業においてその知識を活用できることを目標とする。	1 年次 前期	30	2	○			○			○	
11	○			歯の解剖学基礎Ⅱ Dental Anatomy-Basis II	口腔機能、特に頭蓋骨及び頭部を中心とした筋肉の構造と機能について明示できることを目標とする。	1 年次 後期	15	1	○			○			○	
12	○			歯の解剖学応用 Dental Anatomy-Advanced	筋の動きを中心とした口腔機能や歯の発生機構、硬組織及び歯周組織について、構造と経年変化を明示できることを目標とする。	2 年次 後期	30	2	○			○			○	

13	○		歯型彫刻基礎 Dental Carving	歯型彫刻に必要な器具の正しい使い方を学び、繰り返し実践することで、設定した課題を制限時間内に完成できることを目標とする。	1年次前期	30	1			○	○	○						
14	○		顎口腔機能学基礎 Stomatognathic Function Science- Basic	下顎運動と咬合の概要を学び、歯科技工物の製作に必要な基礎知識を記述できることを目標とする。	1年次後期	15	1	○			○	○						
15	○		顎口腔機能学応用 Stomatognathic Function Science- Advanced	様々な咬合位において咬合関係を理解し、実習授業にその知識を活用できることを目標とする。	2年次後期	15	1	○			○	○	○					
16	○		顎口腔機能学実践 Training of Stomatognathic Function Science	顎口腔機能の基礎的知識を咬合器装着と補綴物の製作を通じて確認できることを目標とする。	2年次前期	15	1		○		○	○	○					
17	○		歯科理工学基礎 I Dental Materials Science-Basic I	石膏、埋没材、歯科用金属について、種類とそれらの性質の違いを認め、理論に基づいた取り扱いができることを目標とする。	1年次前期	30	2	○			○							○
18	○		歯科理工学基礎 II Dental Materials Science-Basic II	ワックスや床用レジンの性質について、種類とそれらの性質の違いを認め、理論に基づいた取り扱いができることを目標とする。	1年次後期	30	2	○			○							○
19	○		歯科理工学応用 I Dental Materials Science-Advanced I	セラミックや複合材料について、種類とそれらの性質の違いを認め、理論に基づいた取り扱いができることを目標とする。	2年次前期	30	2	○			○							○
20	○		歯科理工学応用 II Dental Materials Science-Advanced II	高分子、セラミックス及び複合材料の種類と性質の違いを認め、理論の実践ができることを目標とする。	2年次後期	15	1		○		○							○
21	○		有床義歯技工学基礎 I Denture Techniques -Basic I	ヒトの生体に関する基礎知識及び、部分床義歯の構成要素、技工操作の手順を学ぶ。実習授業において活用できることを目標とする。	1年次前期	30	2	○			○							○
22	○		有床義歯技工学基礎 II Denture Techniques -Basic II	金属床義歯及び全部床義歯の特性、印象方法、模型製作から完成までの手順を学ぶ。実習授業において活用できることを目標とする。	1年次後期	30	2	○			○							○
23	○		有床義歯技工学応用 Denture Techniques -Advanced	既習事項である全部床義歯及び部分床義歯について、得られた知識を構造化し、説明できることを目標とする。	2年次後期	15	1	○			○							○
24	○		部分床義歯基礎実習 I Basic Training of Partial denture Techniques I	義歯に関する基本的事項について、学生自らが装着できる「口蓋板」の製作を通して確認できることを目標とする。	1年次前期	30	1				○	○						○
25	○		部分床義歯基礎実習 II Basic Training of Partial denture Techniques II	部分床義歯構成要素の一つである支台装置の製作を通して、義歯の基本設計を習得することを目標とする。	1年次前期	30	1				○	○						○
26	○		部分床義歯基礎実習 III Basic Training of Partial denture Techniques III	部分床義歯製作における完成までの手順と理論及び基礎技術について、製作を通して確認できることを目標とする。	1年次前期	30	1				○	○						○
27	○		有床義歯基礎実習 Denture Techniques	課題製作を通じて部分床義歯製作の各工程を確認し、基礎力を習得することを目標とする。	1年次後期	30	1				○	○						○

28	○		全部床義歯基礎実習 I Basic Training of Complete denture Techniques I	義歯製作に必要な個人トレー、作業模型製作、咬合器装着に関する知識について、製作を通じて確認できることを目標とする。	2年次前期	30	1			○	○	○						
29	○		全部床義歯基礎実習 II Basic Training of Complete denture Techniques II	人工歯排列、歯肉形成、口蓋部の形態等、義歯製作に必要な知識を、製作を通じて確認できることを目標とする。	2年次前期	30	1			○	○	○						
30	○		全部床義歯基礎実習 III Basic Training of Complete denture Techniques III	蝸義歯の埋没、重合、咬合調整、研磨から完成までの製作に必要な知識を、実践を通じて確認できることを目標とする。	2年次前期	30	1			○	○	○						
31	○		有床義歯総合実習 Basic Training of Denture Techniques	全部床義歯の人工歯排列と歯肉形成を、規定時間内に製作できる技術の習得を目標とする。	2年次後期	30	1			○	○	○						
32	○		歯冠修復技工学基礎 I Restorative Dentistry-Basic I	歯科保存治療に用いるインレーや全部金属冠等の補綴物について、要件や製作順序を明示できることを目標とする。	1年次前期	30	2	○			○	○						
33	○		歯冠修復技工学基礎 II Restorative Dentistry-Basic II	歯科保存治療用いるブリッジや前装冠等の補綴物及び、支台築造について、要件や製作順序を明示できることを目標とする。	1年次後期	30	2	○			○	○						
34	○		歯冠修復技工学応用 Restorative Dentistry-Advanced	製作難易度の高い各種補綴物について、その要件や製作順序を理解することを目指す。	2年次前期	15	1	○			○	○						
35	○		歯冠修復基礎実習 I Basic Training of Restorative Dentistry I	模型の正しい取扱方法を理解し、インレーやクラウンについて、模型製作から完成できることを目標とする。	1年次前期	30	1			○	○	○						
36	○		歯冠修復基礎実習 II Basic Training of Restorative Dentistry II	歯の形態と噛む機能の回復を考慮した蝸形採得の製作を目指し、完成できることを目標とする。	1年次前期	30	1			○	○	○						
37	○		歯冠修復基礎実習 III Basic Training of Restorative Dentistry III	前装冠のフレーム形態の特徴を認め、ワックスアップからメタル調整まで再現できることを目標とする。	1年次前期	30	1			○	○	○						
38	○		歯冠修復基礎実習 IV Basic Training of Restorative Dentistry IV	ブリッジ（固定式義歯）の製作を通じて基底面の形態を学び、補綴物製作における応用的知識の修得を目標とする。	1年次後期	30	1			○	○	○						
39	○		歯冠修復応用実習 I Advanced Training of Restorative Dentistry I	臨床模型を用いたクラウンの製作に関する理論と技術の習得を目標とする。	2年次前期	30	1			○	○	○						
40	○		歯冠修復応用実習 II Advanced Training of Restorative Dentistry II	臨床模型を用いたクラウンや前装冠の製作に関する理論と技術の習得を目標とする。	2年次前期	30	1			○	○	○						
41	○		歯冠修復総合実習 I Comprehensive Training of restorative Dentistry I	蝸形採得の反復練習を通じて形態の再現度を高めることを目標とする。	2年次後期	30	1			○	○	○						
42	○		歯冠修復総合実習 II Comprehensive Training of restorative Dentistry II	蝸形採得の反復練習を通じて、歯冠形態回復のスピードと正確さを身に付けることを目標とする。	2年次後期	30	1			○	○	○						

43	○		矯正歯科技工学各論 Particular Theories of Orthodontics	各種矯正装置の役割や分類方法を学び、製作方法に関連付けられることを目標とする。	2年次前期	15	1	○			○		○	○	
44	○		矯正歯科技工学総論 Principles of Orthodontics	矯正歯科治療の概要及び技工用器具と器械、材料や技工の手技について明示できることを目標とする。	1年次後期	15	1	○			○		○	○	
45	○		矯正歯科技工実習 Practical Training of Orthodontics	矯正装置の製作方法について、実習を通して再現できることを目標とする。	1年次後期	30	1				○	○		○	
46	○		小児歯科技工学各論 Particular Theories of Pedodontics	小児歯科で用いられる歯冠修復物や各種咬合誘導装置について、その製作方法と理論を関連付けられることを目標とする。	2年次前期	15	1	○			○		○	○	
47	○		小児歯科技工学総論 Principles of Pedodontics	小児歯科で用いる装置の製作に必要な小児期の成長発育の特徴を学ぶ。特に歯列の成長発育について明示できることを目標とする。	1年次後期	15	1	○			○		○	○	
48	○		小児歯科技工実習 Practical Training of Pedodontics	小児歯科技工に必要な基本的な歯科技工技術を学び、製作を通して再現できることを目標とする。	2年次前期	30	1				○	○		○	
49	○		技工基本実習Ⅰ Basic Training of Dental technologyⅠ	ワックスアップの製作について、反復練習を通じて、既習技能を確認することができる。また、基本操作を規定時間内に実践し、完成できることを目標とする。	1年次前期	30	1				○	○		○	
50	○		技工基本実習Ⅱ Basic Training of Dental technologyⅡ	人工歯排列について、既習技能を確認することができる。また、基本操作を規定時間内に実践し、完成できることを目標とする。	1年次後期	30	1				○	○		○	
51	○		歯型彫刻応用Ⅰ Advanced Training of Dental CarvingⅠ	歯のデッサンや歯型彫刻の反復練習を通して、指定した歯種の形態的特徴を表現できることを目標とする。	1年次後期	30	1				○	○		○	
52	○		歯型彫刻応用Ⅱ Advanced Training of Dental CarvingⅡ	歯のデッサンや歯型彫刻の反復練習を通して、指定した歯種の形態的特徴をより高いレベルで表現できることを目標とする。	1年次後期	30	1				○	○		○	
53	○		歯型彫刻総合Ⅰ Comprehensive Training of Dental CarvingⅠ	デッサンと歯型彫刻の技術向上を目指す。歯の形態的特徴を見本を用いて規定時間内に表現できることを目標とする。	2年次前期	30	1				○	○		○	
54	○		歯型彫刻総合Ⅱ Comprehensive Training of Dental CarvingⅡ	デッサンと歯型彫刻の技術向上を目指す。歯の形態的特徴を見本を用いずに規定時間内に表現できることを目標とする。	2年次後期	60	2				○	○		○	
55	○		歯科技工実習総合Ⅰ Training of Dental TechnologyⅠ	チーム歯科医療の一員としての役割を、歯科衛生士科や歯科技工士科2年生との実習を通じて確認できることを目標とする。	1年次前期	30	1				○	○		○	
56	○		歯科技工実習総合Ⅱ Training of Dental TechnologyⅡ	習得した知識や技能の確認を行う。課題製作を通じて学生自らも今後の課題を設定し、技術向上に活かせることを目標とする。	1年次後期	30	1				○	○		○	
57	○		歯科技工実習総合Ⅲ Training of Dental TechnologyⅢ	課題製作や合同実習を通じて、習得した知識や技能の確認を行う。今後の課題を設定し、技術向上に活用することを目標とする。	2年次前期	30	1				○	○		○	

58	○		歯科技工実習総合Ⅳ Training of Dental TechnologyⅣ	課題製作を通じて、「スピード」、「正確さ」を身につけ、臨床現場に対応した基本操作の再確認をし、確実な知識と技能を身に付けることを目標とする。	2年次後期	30	1			○	○	○						
59	○		総合歯科技工Ⅰ Dental Technology Comprehensive I	歯科技工業務を見据えて専門科目の枠を超え、今までの学びを総合的に復習し理解することを目標とする。	2年次前期	30	2	○			○	○						
60	○		総合歯科技工Ⅱ Dental Technology Comprehensive II	歯科技工業務を見据えて専門科目の枠を超え、今までの学びを総合的に復習し正確に理解することを目標とする。	2年次前期	90	6	○			○	○						
61	○		デジタル歯科技工入門 Introduction to Digital Dental Technology	PCの基本操作を学び、歯科専用ソフトウェアを用いて「盛る」「削る」操作し、歯の形を作ることを目標とする。	1年次後期	15	1		○		○	○						
62	○		課題研究実習Ⅰ Research and Professional Practice I	修得した知識や技術を振り返り、技術向上のために必要な技工作品と製作計画を検討立案することができる。また、実際に製作を開始することを目標とする。	2年次前期	30	1			○	○	○						
63	○		課題研究実習Ⅱ Research and Professional Practice II	技術向上のために設定した技工作品と製作計画を実践する。計画通りに製作を進めることを目標とする。	2年次後期	30	1			○	○	○						
64	○		インターンシップⅠ Internship I	代表的な歯科技工士就業施設の見学を通して歯科医療専門職として社会で働くために必要な課題を設定できることを目標とする。	1年次前期	15	1		○		○	○	○	○	○	○		
65	○		インターンシップⅡ Internship II	歯科技工業務の見学及び就業体験を通じて、業界で活躍するための課題を設定し、進路決定の準備を具体的に進めることができる。	2年次前期	45	3		○		○	○	○	○	○	○		
66		○	臨床技術実習 Clinical Dental Technology	陶材焼付金属冠及び、金属床フレームワークのワックスアップについて学ぶ。製作工程の流れとその要点を、製作を通じて理解することを目標とする。	1年次後期	45	3		○		○	○						
67		○	デジタル歯科臨床 Digital Clinical Dentistry	臨床でも戦力となるためのデジタル歯科技工技術の習得を目的とする。	1年次後期	45	3		○		○	○						
68		○	国際教育 International education	国内外における歯科医療や訪問国における歯科業界の動向について、現地での研修を通じて学び、記述することができることを目標とする。	1年次後期	15	1		○		○	○						
69		○	スポーツ歯学入門 Introduction to Sports Dentistry	スポーツ歯学の概要及びスポーツマウスガードの役割を学ぶ。学生自身の口腔内模型を用いて基本的なマウスガードが製作できることを目標とする。	1年次前期	15	1		○		○	○						
70		○	スポーツ歯学実践 Training of Sports Dentistry	スポーツ歯学の概要及びスポーツマウスガードの役割を学ぶ。学生自身の口腔内模型を用いて基本的なマウスガードが製作できることを目標とする。	2年次前期	15	1		○		○	○						
合計						70 科目			92 単位 (単位時間)									

卒業要件及び履修方法	授業期間等
卒業要件：学年ごとに必須単位数を修得し進級する。	1 学年の学期区分 前・後期
履修方法：全科目履修で卒業となる。	1 学期の授業期間 21 週

(留意事項)

1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。

2 企業等との連携については、実施要項の3 (3) の要件に該当する授業科目について○を付すこと。